歴史講座２　「ヲロシアと日本人漂流民」～日露国交樹立の陰で

日時：2025 年 12 月 19 日（金）13:30～14:50（全 80 分休憩なし）

≪即席混成グループの講座準備≫

私たちは、日本史（近現代）グループと世界史グループとの混成グループ（７名）です。

混成となったため、講座のテーマを決めることが難しかったのですが、シベリアに進出したロシアと、ロシアに漂着した日本人漂流民との関係を通して、日本とロシアとの国交が樹立される経緯を発表することにしました。日露の国交樹立は、日英、日米の国交樹立と同時になされ、日本が「世界史」に第一歩を踏み出し、「近代」に入る契機となったからです。

幕末の、ロシアへの日本人漂流民のうち、伊勢国神昌丸の船長で、無事に帰国した大黒屋光太夫の記念館が、三重県鈴鹿市にあります。見学に行こう、ということになり、都合のついた 5 人で行ってきました。大黒屋光太夫が私たちを迎えてくれました（写真）。

講座で発表する筋道を立て、発表の方法と担当を決め、何度か集まって発表の実演をして内容のすり合わせと時間調整をし、リハーサルも一度やりました。

大黒屋光太夫記念館にて

はじめに　担当：田口（5 分）

第１部　ロシア帝国のシベリア開拓　担当：藤原（15 分）

ポルトガルやスペインが海外に領土拡大を求めた時代、ロシアは陸路東に進みシベリアを開拓して領土を拡大しました。しかし極寒と凍土のシベリアで、彼らは何をしようとし、当時鎖国していた日本に何を求めたのでしょうか。

第２部　ロシアへの日本人漂流民と日露交渉　担当：進藤（20 分）

ロシア領に直接漂着、または別の場所に漂着後ロシアに移された日本人漂流民は 13 組です（記録あるもの）。漂流民のロシアでの生活や待遇と、日露関係の推移についての発表です。

第３部　大黒屋光太夫の漂流譚（たん）　担当：瀬戸口、内田、国分（25 分）

ロシアへの漂流民の代表例として、伊勢国神昌丸船員の漂流から帰国までの経緯と帰国後の処遇を、スライドと朗読で発表します。

第４部　幕末の世界研究　担当：進藤（10 分）

当時、幕府が所有していた世界地図に示されていないロシア領土が北隣にあり、脅威を受けつつあることが判明し、幕府要人はもとより学者、町人も含め世界研究が盛んとなり、ロシアを含む西欧勢力とアメリカが、世界を支配しようとしている現実に気が付いたのです。

まとめ　担当：佐野（5 分）

（裏面にロシア地図掲載）

ロシア地図

出典：「旅行のとも ZenTech」ウェブサイト（３地名追記）

≪日本史（近現代）・世界史混成グループ≫

田口康博（８年）、藤原尚武（4）、進藤正昭（15）、瀬戸口弥千代（4）、内田美保子（2）、國分好子（2）、佐野俊一（10）